「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

（20-4）
Nov. 2020

金煥・朴貞玉

「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました」（Ⅱコリント 5:18）

どこの国でも春はやはり喜ばしい季節です。こちらは結構寒かった冬が過ぎ去り、新緑の春が訪れました。宣教同労者の皆様に三位一体の神の御祝福をお祈りします。

1．南アフリカの状況

南アフリカでは9月17日からロックダウンのレベルが1に下がりました。このレベルでは日常生活がロックダウンの前と殆ど同じぐらいですが、ただマスクの着用とソーシャルディスタンスは厳格に要求されております。なお集会と海外旅行の制限はまだあります。そのような状況のなかで少しずつ胸を張って先ずできることから奉仕を始めました。

肺疾患にかかっている兄弟の家族

2．救済活動

先ず救済活動です。ここポチエフストロムに日雇い労働者たちが仕事を望みつつ、待機している場所が幾つかあります。そこで働き手が必要な人々が来て、必要な人数を雇って行きます。勿論、一日ずっと待ち続ける労働者もいます。私たちはそれを見て、1回の食事ができるぐらいの食品を袋に入れて、20人から30人くらいの人々に配りました。勿論、「イエス・キリストはあなたを愛しておられます」とか「神があなたを祝しますように」とか英語で言いながら配りました。そうする内にアメリカの、ある教会から支援金が送られました。3500ドルです！ここでは相当な金額です。その全部を救済基金にすることにしました。

原住民の村を訪ねて貧しい、或いは苦しい人々を紹介して貰い、彼らに食料品と日常必需品を配りました。大体4、5人の家族が1週間生活できる分を配りました。その後も知人の宣教師の案内を受けて、様々な↘

↘原住民村を訪ね、苦しい状況の中にいる人々と逢うことができました。長い間、鉱山で働き、肺疾患にかかってしまった人、エイズ患者、癌と闘っている人など、貧しさのみならず、様々な課題に直面している人々でした。勿論、現地の牧会者から紹介されたクリスチャンたちでしたので、彼らは私にとって兄弟たちなのです。

エイズ患者のヘルト（Gert）兄弟と彼の娘

3．就学支援活動

もう一つは就学支援活動です。原住民村の中でイカヘン（Ikageng）という村がありますが、そこで生徒への熱心な教育で有名な中高等学校が一つあります。そこの校長と話し↘

↘合い、校長が推薦する、勤勉に勉強している生徒数人に奨学金というか激励金というか、そういったものを手渡しながら励ます時を持ちました。校長は快く受け入れて、数名の生徒を推薦し、朝の朝礼でその授与式を行うよう許可してくれました。私は朝の朝礼で挨拶と激励のことばを述べた後、祝福の祈りをしました。勿論校長の許可の下でです。南アフリカはまだこういったことができるんだなと感動を覚えつつ、明るい未来を見たような気がしました。

奨学金授与式

そして、「草の根」のような、原住民の働き人による原住民伝道については次回報告させていただきたいと思います。皆様の、主にある平安をお祈りします。